授業づくりリーフレット2026　フォローアップ第4号

『全国学力・学習状況調査から考える授業づくり』

【児童生徒と教師で創りあげる対話のある学び】

令和８年11月６日
中越教育事務所
学校支援第２課

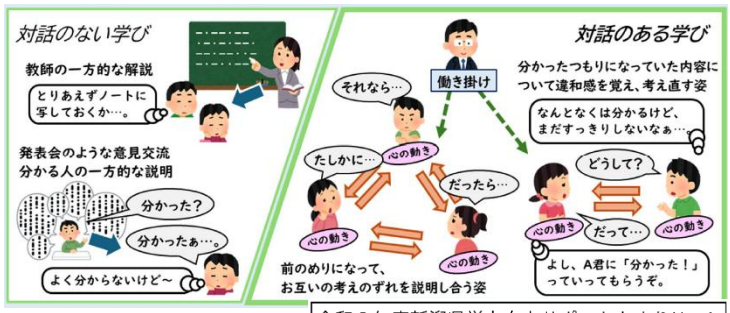


令和８年度全国学力・学習状況調査の結果分析を受け、各学校で学力向上や授業改善の取組が進められていることと思います。

今年度の全国学調では、質問調査で各教科ともに「授業がよく分かる」と回答した児童生徒の割合が高かった反面、正答率が低いという「ねじれ」が見られました。その原因の一つとして**「対話のある学び」において話し合いの楽しさが論理的なアウトプットに十分結びついていないこと**が考えられます。「対話のある学び」を確かな学力につなげるために今号では、対話に焦点を当て、その意義や授業づくりのポイントについて解説します。

令和８年度全国学力学習状況調査の結果
9/30付　新潟県報道資料

その対話、学びが深まっていますか！？



令和８年度新潟県学力向上サポートたよりNo.１

左の図は、本県が示す「対話のある学び」です。「どうしてだろう」「自分の考えを話したい」「友達の考えをもっと聞きたい」「もっと考えたい」といった心の動きによって、児童生徒が教科の見方・考え方を働かせながら学びを深めていく姿を期待しています。

対話のある学びの効果

- 自ら考え、表現する力が育成される
- 自分の考えを説明することで、思考力・判断力・表現力が養われる
- 多様な考えにふれることで、自分の考えを広げ、学びを深めることができる
- 主体的に学習に取り組む意欲が高まる　等

対話のある学びの効果は、左記の通りです。ただし、対話を行えば、こうした効果が必ず得られるわけではありません。教師は、各単元において、左記のような効果につながる、意図的な対話を授業に位置付ける必要があります。



対話の時間を設定しているのですが、児童生徒の学びが深まっているかどうかよく分かりません。どうすればよいのでしょうか。

児童生徒が活発に対話をしていたとしても、学びが深まっているかどうかが分からない時もありますよね。そこで、対話を通して児童生徒の学びが深まったかどうかを**どのように見取ればよいのか？教師が意識すること、教師の役割等**を紹介します。



教師の見取りのポイント

- 一方的な発表で終わっていないか
- 分かっている児童生徒が意見を伝えているだけになっていないか
- なぜその考えになったのか等の理由を話しているか
- 意見を聞いて納得していなければ「分からない」「納得できない」と言える雰囲気になっているか　等

左記に示したのは一例です。このポイントを基に、児童生徒の対話がどのような状態なのか見取っていきましょう。

対話への教師のかかわり方



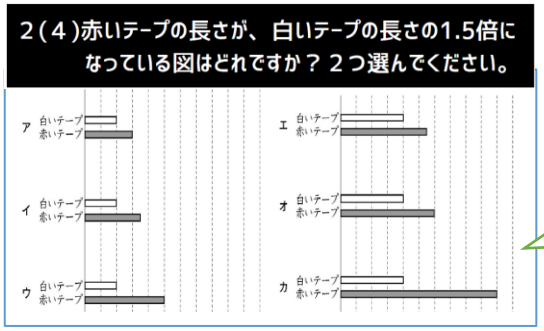
対話の時こそ、児童生徒の様子を丁寧に見取っていきたいと思います。もし学びが深まっていないと感じた場合、教師はどうすればよいのでしょうか。

最初のうちは、教師が児童生徒の対話に積極的にかかわっていきましょう。教師が対話を把握し、コーディネートしていきます。児童生徒の対話の力を育て、徐々に任せる部分を多くしていきましょう。



教師の対応・意識するポイント

- ○ 児童生徒の姿や発言を丁寧に見る、聞く（とらえる）
- ○ 児童生徒の思いや考えを理解する（解釈する）
- ○ 本時のねらいとの関係を考える（照合する）
- ○ どのように対応するか決める（判断する）
- ○ 端的に発問したり板書したりする（対応する）



左記の問題は、令和８年度全国学力・学習状況調査「小学校・算数」の問題です。

授業の中で教師はどのように働きかけるとよいのか紹介します。

新潟県の正答率は **27.4%**

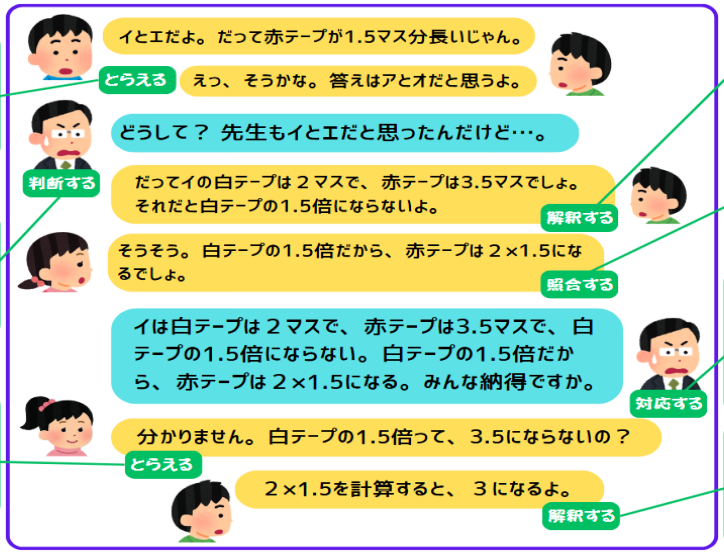
全国学調の報告書では
基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことに課題がある
と明記されている



とらえる：誤解をしている子どもと正しい選択肢を選んだ子どもで意見のずれが生じた。

判断する：あえて誤解の立場に立ってつぶやき、根拠を説明し合う必然性を作り出す。

とらえる：まだ納得できていない子どもの気持ちを丁寧にとらえる。



解釈する：教師のゆさぶりを受けて誤解の理由を説明しようとしている。

照合する：本時のねらいの「もとにする量」と倍の関係に迫る発言が出ているかを照合する。

対応する：出された意見を一部の子どもだけの理解で終わらせず、全員が納得できているかを確かめる問い返しを行う。

解釈する：言葉だけでなく具体的な式を用いて説明しようとしている。

児童生徒の対話に、私たち**教師が積極的にかかわり、コーディネートする**ことで、深い学びにつながる対話を生み出していきましょう。

対話のある学びの充実へ向けて

日頃から、「対話のある学び」を充実させるため、以下のポイントも参考にしてください。

教師のかかわり・言葉かけ例

・「どうしてそう思ったの？」
・「みんなはどう思う？」　等
児童生徒の思考をゆさぶり、自力で解決しようとする意欲や、友達に説明する必然性を引き出します。

分からないと言える学級づくり（発達支持的生徒指導の視点）

「分からない」「納得できない」と正直に言える。安心感（心理的安全性）が対話を深める土台になります。

授業づくりリーフレット2025

対話後の見取り（学びのアウトプット）

対話後に自分の考えがどう変わったかをノート等にアウトプットさせ、学びが深まったかどうか確認します。